

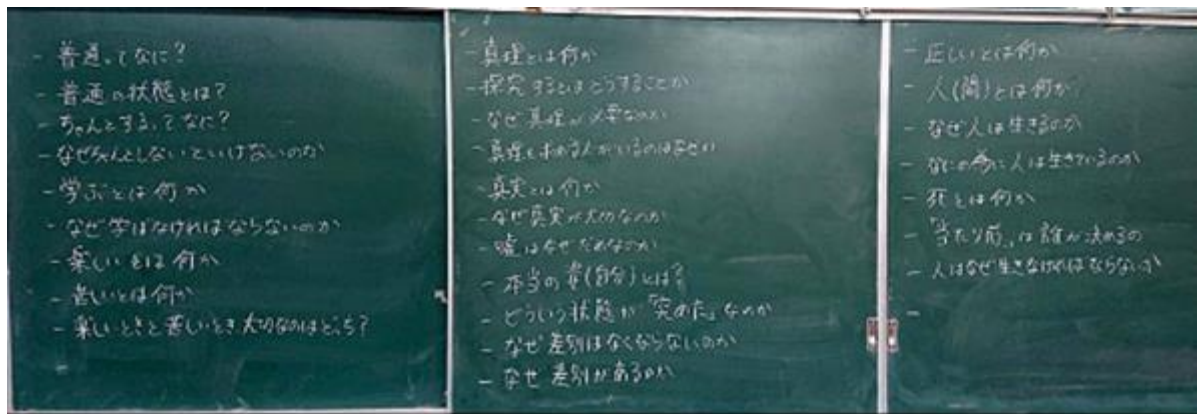
WAYプロジェクト

2020.1.23 (木)

今回は「真理の探究」という項目を実際に授業として行うなら、どのように授業をするか、どのような発問が考えられるかという内容で議論をしていきました。

まず、前回は道徳の22項目の中から3月（つまり3年生は卒業する生徒に向けて、1、2年生は次の学年に向けて）に行う授業ではどれをするのか。という話し合いが行われた結果、「真理の探究」という内容項目で授業をやってみようということになりました。

前回は「“真理の探究”の授業をやるときの発問を10個考えてくる」という宿題が出たため、それぞれが持ち寄った発問を検討していった。その中には「真理とは何か?」「探究するとは何か?」「普通とは何か?」「なぜ嘘はいけないのか」などの発問があげられました。



この項目をするにあたって何を題材に授業展開をしていけば良いのかを議論し、一案として「フェイクニュースを用いて授業を試みる」という案が出されました。理由として10年以上前に歴史の教科書に嘘の内容が書かれていたという事があり、それを受けて、その内容で授業をやる、或いは授業者がフェイクニュースを作ったりして、生徒と一緒に“真理”を考えてみるのもよいのではないかというものでした。

日本には道徳の授業をするにあたって理科の授業中に道徳の内容を含み、理科と道徳の授業を同時にされる先生もいらっしゃるようです。

しかし授業において教科書は必要教材です。では、私たちが今後道徳の授業を教科書を用いてやっていくとして、上手くその教科書を扱えるのかという話し合いになりました。

教科書を見てみると、「真理の探究」という項目に適した内容は1～3年生の教科書の中で4つ該当しました。その中でも2年生の教科書に載っている「赤土の中の真実」という題材に着目しました。

この物語の主人公は相沢 忠洋（あいざわ ただひろ）さんという日本の考古学者の方です。関東ローム層の中から打製石器を発見し、当時それまで否定されてきた、旧石器時代の存在を明らかにした人物です。

この内容では「ヒトはなぜ真理を探究するのか」という問に関して、偉大な発見をした相沢さんという実在した人物を例に挙げてわかりやすい導きをしているのではないかと感じました。

ここで予測できる生徒達に対する発問内容としては、“皆は相沢さんのように熱中できるもの（こと）がありますか？”や“君たちの中で相沢さんのような経験をした事がある人はいますか？”というものではないでしょうか。その発問をすることで、生徒達は自分が過去に経験したことや、実際に見たこと聞いたこと等を思い出し、様々な解答が得られるのではないかと思います。

そこから“相沢さんのように真理は一人で探究するものなのか”という本質的かつ葛藤を生むような質問をした後、改めてこの内容の大きなテーマである「ヒトはなぜ真理を探究するのか」という問について考えることができるのではないのでしょうか。

今回は実際に指導案を作成して持ち寄り、検討していく作業を行います。

（文責・堀榮）